



発行所 全国曹洞宗青年会
〒105 東京都港区芝
2-5-2 曹洞宗本願寺内
発行責任者 伊藤直立
TEL. 03-3454-5411内

全曹青

第八期を

回顧しつつ



総合企画委員長 村松延行

平成三年一月十七日中東湾岸戦争が勃発し、昨年より危惧しておりました事が現実となってしまいました。

忌まわしき戦争で、大量の原油流出で百年でも取り返しのつかない環境破壊が進み地球上の多くの生命が奪われている毎日の報道を見ながら個人の無力さを感じる昨今です。

さて早いもので全曹青第八期もあとわずか二年の任期満了を迎えます。十五年の節目の年を任期中に迎え初心を忘れることなくスローガンである「大衆教化の接点を求めて」と多くの事業を展開させていただきました。十五周年の記念事業の曹青通信復刻版「好堅樹」は全曹青発足からの歴史そのもので、多くの先輩諸師の足跡を知りえる貴重な資料となりました。全国リレー托鉢、全国ソフトボール大会等と青年僧侶のエネルギーを結果し、会員それぞれの自覚を促がし社会的価値ある活動が出来ました事は、全国会員諸師の御協力があつたればこそと厚く御礼申し上げる次第であります。又各管区曹青、各地方曹青に於いては

時代にマッチした意義ある事業を展開され底力の強さに感銘致しました。

又今期最終事業として計画しておりました第十四回禅文化学林「ギリスト教文化との接点を求めて」イタリアウアチカンでの研修計画も湾岸戦争の影響を考慮して中止せざるをえない状況となりました事は多くの研修成果を期待していただけに残念な思いがします。

科学が今大量の生命を奪っており、人間のエゴで、主義主張の違いを侵略によってのみ解決しようとする、人間誰もが平和を願っているはずなのに我も我もと知足を忘れてしまった愚かな現実です。真理は不変です。早く気がつき心豊かな平和を取り戻すことが大切です。昨年は宗門をあげて修証義制定百周年記念の事業を全国的に展開しました。私にはすばらしい指針となる教えがあります。思いやりの心をもっとと自覚し実践し、釈尊、祖師の原点に帰り私たちが今何を求め何をなさなければならないか、全曹青本来の和合僧の精神で多くの事業を行い安心できる平和な心の世の中を築くよう、今後も責任ある行動をしていかなければならないと思います。

最後に今期も組織委員会を中心に加盟促進をいたしました。それぞれの地方の事情も勉強させていただきました。全曹青は同じ教えに生きる宗侶の集まりです。宗門に於いても各寺院を護持し教化者として現場で悪戦苦闘している宗門人の一人一人です。混迷する世の中にあつてこそ、私たち青年僧の知と力を結集し共に英知を出し合い、二十一世紀に繋がる宗門づくりに寄与できるように意義深い活動が展開されることを切望します。未だ未加入の青年宗侶にも是非とも呼び掛けをしていただき共に全曹青の仲間づくりに参画していただきますようお願い申し上げます。 合掌

青年僧侶のエネルギーを結集しよう
社会的価値ある活動をしよう
青年僧侶の自覚を促そう
地域における活動の連携を深めよう

平成二年度

全曹青総会の御案内

平成三年五月二十二日(木)

十二時 理事会

一時 評議員会

二時 総会

三時 禅の集い中央研修会

講師 福島大学教育学部助教授 白石 豊 先生

五時 懇親会

会場 宗務庁

平成三年五月二十四日(金) 友引

九時出発 他教団教義研修

於 池上本門寺

※大勢の出席をお願い致します(会費 壹万円)
なおお欠は四月末日までに同封の葉書きにてお願い致します。

目次

- 1 八期回顧・総会案内.....
- 2 我が曹青を語る(新潟).....
- 3 OB会(龍象会)総会案内研修.....
- 4 「禅へのいざない」.....

破草鞋

世に出回っている雑誌の日付を見て疑問に思ったのは私一人だろうか。例えば、発売日は四月一日なのに、その雑誌の日付は四月十五日号となっている。これならまだ良い方である。中には四月なのに五月号として発売されているものも少なくない。なぜだろうと疑問に思いついてみた。それによると、何年か以前に、ある雑誌が次号を他誌より早く出せば、たくさん売れるだろうと考え、一ヶ月前に出したのが始まりのようだ。案の定、その雑誌は爆発的に売れた。読者にしてみれば、店頭で四月号が並んでいる中で一つだけ五月号があればそちらを手取るのも当然の心理と言えよう。それ以来、各出版社が競って早く出版し始めたのである。ひどいのは秋祭りの頃に新年号を出す出版社もあったようである。そこで今では、月刊誌は四十日先、週刊誌は二週間先までの日付と決められているのである。さて第八期における我が「曹青通信」はどうであっただろうか。日付よりも早く出すどころか、日付けに間に合わせるのに精一杯でとすれば、日付よりも遅れて発行し、会員の皆様方に御迷惑をおかけするばかりであった。この紙面を借りて、会員を始めとする読者の皆様にお詫びするものである。全曹青は、今八期から九期へとバトンが渡されようとしている。いつの時代でも、どんな場合でもそうであろうが、前回の良い所は受け継ぎ、悪い所は捨てて、さらに新しいものを導入して、次なる一歩を踏み出すのである。全曹青九期が、八期の、いや一期から八期までの諸先輩方の英智を全て引き継ぎ、全曹青百年の大計の為に輝かしい一歩を踏み出す事を期待してやまない。がんばれ全曹青!

我が曹青を語る

(19)

新潟県曹洞宗青年会

会長 藤田秀典



我が曹青は、北陸の地に

「曹青会」をとの声に呼応し、昭和五十三年十二月県内各地の青年会に呼びかけ「連絡協議会」を設立。翌五十四年四月に設立総会を開催。同時に、これは北陸各県の代表も一堂に結集し、北陸管区集会所の併催という形であった。草創期の当会にとって、有難いことに円滑な青年会活動が出来るようにと基金の創設を得た。この力強い支援を戴き、「心のゆたかさ学園、坐・ハングリー」と「秋季研修会」を年間活動の両輪とし、二年毎の特別事業の開催によって、現在に至る会員数は、正会員百八十名、賛助会員百名という大所帯で、県内単一の新潟県曹洞宗青年会として活動している。

特別事業として、昭

和五十五年五月に開催した「良寛和尚百五十回忌奉讃事業」は、良寛和尚百五十回忌法要、遺墨展、遺跡めぐり、現代名僧墨蹟展、禅院茶礼、良寛さまと子供祭り、記念出版としての良寛和尚の宗教と多岐に亘った。当日、県民会館前は二千

人を越える長蛇の列ができ、館長さんが「この種の行事でこれだけの人数が集まったのは初めてだ」と漏らすほどの大盛況であった。更に、駒沢大学の新井勝龍教授によって「法華転法輪講」の全貌解明がなされ、すぐれた道元禅の継承者であり、正しい宗乗の実践者であったと、洞門における祖師として正しく位置づけられて戴いたことは、和尚の遺徳顕彰のうえから無上の喜びであった。この事業の収益は、「交通遺児に愛の手を」の趣旨に則り寄贈され、献血輸送車「良寛号」として県内各地を駆け巡ることとなった。

設立以来の念願であった大仕事を終えた当会は、仏教セミナー「仏教は社会の要請に答えているか、社会は仏教の期待に答えられるか？」をテーマに開催。これは、約一ヶ月間に八回という連続講演の中で、稲葉修先生や水上勉先生など教育者、医師、政治家、作家、評論家、僧侶と各界から多彩な講師陣を招き、夫々の立場から高い見識と豊富な経験を通して存分にお話し戴いた。後日、講演録として「私たちと仏教」という題名で春秋社より発刊。

その後、五周年記念事業として行われた「禅展」は、禅の秘宝展と生活展、大坐禅会、曹洞宗名僧墨蹟展と禅寺の料理と三会場で開催。禅の秘宝展では、永平寺・総持寺向大本山・大乗寺・永光寺・総持寺祖院のご協力を賜り、五大祖師方の文化財を含めた遺品、墨蹟、総数五十九点(重文八点)を一堂に展示した。これは宗門史上初の試みであり、日本曹洞禅の源流を総合的に把握する意味から高い評価を得、延べ二千五百余名の入場をみた。総ての行事を通して、禅寺の香を肌で感じ、歴史の重みと同時に曹洞宗を少しでも認識して戴いたと信じている。事業の収益は、県社会福祉協議会へ寄付、感謝状を頂戴した。

平成元年は設立十周年を迎え、記念事業「お釈迦さまってどんな人？」を開催。人間釈尊に接し、心の安らぎを得る宗教を趣旨とせるも、このテーマ余りにも大きく永遠のテーマである。今までの行事もそうであるが、普段は口数少なく、い



ざとなると火事場の馬鹿力ならぬ無謀ともいえることを企てるのは、道念厚き証拠か、はたまた県民性であろうか。ともあれ今回も多種行事である。花まつり法要とおはなし、記念講演と座談会、ミュージカル「風を見た人BUDHA」、

和五十八年、インド仏跡巡拝旅行実施。四年後、自然の流れとして、中国祖蹟巡拝旅行実施。そして昨年は、道元禅師祖蹟巡拝旅行を実施した。各研修旅行とも参加した者にだけ味わうことの出来る感慨無尽。

定例事業は、子供禅の集いである「心のゆたかさ学園、坐・ハングリー」と秋季研修会がある。心のゆたかさ学園は、創造性と自主性を育むという観点から体験学習を取り入れ、海あり山ありという新潟の地形を生かし、且つ地元の名物・名産を盛り込んだ行事として県内持ち廻りで開催。第一回は佐渡を会場とし、洋上セミナー「豆腐づくり・そり作り」を実施。その後、そば作り・炭づくり・水ようかん・塩づくり・空き缶合炊飯・風づくり等体験し十回を数えるが、回を重ねるごとに体験学習が負担となってきたことは早急な課題。しかし、子供達の笑顔と来年もまた来たいという気持ちを抱くことのないよう模索中。

大栄寺専門僧堂での秋季研修会は、僧堂規程に従い大衆一如の生活をとおして日常を反省し、宗侶としての自覚を再認識する機会としては、当会諸活動における根幹を成す行事である。また、坐禅・巡香・行鉢法・浄人進退・日課誦経他を写真百七十枚入りで製作した「研修の葉」は力作である。更に、視線を深める意味から、ソフトボール大会を実施している

研修事業として、昭

和五十八年、インド仏跡巡拝旅行実施。四年後、自然の流れとして、中国祖蹟巡拝旅行実施。そして昨年は、道元禅師祖蹟巡拝旅行を実施した。各研修旅行とも参加した者にだけ味わうことの出来る感慨無尽。

定例事業は、子供禅の集

いである「心のゆたかさ学園、坐・ハングリー」と秋季研修会がある。心のゆたかさ学園は、創造性と自主性を育むという観点から体験学習を取り入れ、海あり山ありという新潟の地形を生かし、且つ地元の名物・名産を盛り込んだ行事として県内持ち廻りで開催。第一回は佐渡を会場とし、洋上セミナー「豆腐づくり・そり作り」を実施。その後、そば作り・炭づくり・水ようかん・塩づくり・空き缶合炊飯・風づくり等体験し十回を数えるが、回を重ねるごとに体験学習が負担となってきたことは早急な課題。しかし、子供達の笑顔と来年もまた来たいという気持ちを抱くことのないよう模索中。

大栄寺専門僧堂での秋季研修会は、僧堂規程に従い大衆一如の生活をとおして日常を反省し、宗侶としての自覚を再認識する機会としては、当会諸活動における根幹を成す行事である。また、坐禅・巡香・行鉢法・浄人進退・日課誦経他を写真百七十枚入りで製作した「研修の葉」は力作である。更に、視線を深める意味から、ソフトボール大会を実施している

海潮音は、観世音の妙力が

曹青の活動報告であるが、この全曹青通信が発行されるころ、海潮音も二十四号を数えているであろう。

☆記念誌紹介

『曹洞宗新潟県寺院歴住世代名鑑』
監修 竹内道雄先生
編集 新潟県曹洞宗青年会

〔題字・序〕 菅長宛下
〔装丁〕 B五判 二段組 六〇三頁
布クロス 上製 函入

〔内容〕
○県内曹洞宗寺院(廃寺等を含む)合計八四一ヶ所における歴住世代一七、〇〇〇余名の一覧。
○宗務所・教区・寺籍番号、山号・寺院名、住所・住職、本尊・開基、本寺を示し、次いで世代尊名・示寂年月日・備考を記す。
○備考欄は、各寺院記入のものに加え、大本山総持寺所蔵「住山記」をはじめとする諸史料により補足され、充実している。
○巻末に寺院名索引、西暦和暦対照表を付す。

〔頒布〕 八、五〇〇円(送料込)
本書のお申し込みは、ハガキにて左記へお願いします。
新潟県北蒲原郡聖籠町次第浜 永泉寺内
新潟県曹洞宗青年会
記念編集事務局
〒九五七-〇〇一
電話(〇二五四)二七-三四三二番

心にやすらぎを……

曹洞宗のしきたりと心得

天龍寺

四字禅語

「曹洞宗のしきたりと心得」全国曹洞宗青年会監修 B6判 定価1100円(税込)

「四字禅語」全国曹洞宗青年会著 B6判 定価1300円(税込)

「カセットブック・曹洞宗」全国曹洞宗青年会著 新書判 定価1500円(税込)

〒162 東京都新宿区弁天町43 電話 03-3267-6821 事業企画室(直通) 電話 03-3267-6824
FAX 03-3235-6672 株 池田書店 振替 東京 2-60072 FAX 03-3235-6672

曹青ORB会 龍象会のご案内

「曹青」という言葉になつかしさを感じる諸兄も多いことと思います。いかがお過ごしでしょうか。あの情熱だけは消えることなくますます活躍されていると信じています。さて、昨年現執行部の呼び掛けにより曹青のORB会が発足しました。今回第一回の総会を開きますので多数ご出席下さいませようここに案内いたします。

なお、この会は全曹青の役員経験者の会ではありません。各地の曹青経験者と理解協力いただいた方で、青年僧の活動を支援しようという方でしたらどなたでも参加いただきましたと思います。

青年会活動を支援

寺院活動が本格化し、「曹青」は青年期の思い出といった諸兄も多いと思います。少し振り返って下さい。皆さんが現役の頃、そんなORBをどんな目で見ているでしょうか。責任も重くなり、毎日が忙しいことも重々承知していますが、「思い出」と語ったなら現役諸兄は「曹青は遊びか」と引いては「布教活動は遊びか」と詰問することでしょう。ORBの責務とし、現役曹青に目を配り、宗門ということも考えなければならぬと思います。

「曹青が宗門の第一線を持って活動してくれているのはうれしいことです。現役諸兄はその期待に応えてくれていますが、皆さんも味わったように、熱意をもって立案したはずの企画が、空転して悔し涙することも耳にします。なぜ空転したのでしょうか

全曹青・龍象会

さて、ORBについて再考してみたいと思います。活動を終えただけでORBでしょうか。そんな答えを皆さんが現役で聞いたら納得しないと思います。曹青が宗門布教の第一線であり、実質的な活動部隊であることは言及するまでもありません。この活動こそ育てなければならぬ組織です。その支援はORBとその理解者がまわったさねばならないと思います。

昨年、全曹青現執行部の呼び掛けによって曹青のORB会が設立されました。青年期の思い出を語るも可であります。何よりも現役諸兄を励まそうではあります。龍象会事務局

青年僧の活動を支援する組織が不足しているように思います。宗門は大教団ですが、それゆえ小回りがきかないとも聞きます。もとより、組織より「企画」というまでもないことですが、若い力を結集し運動として生かす組織が宗門にはないように思うのです。

宗門の青年会として

本年度現役の諸兄は会則変更をいたしました。目を引くのは全曹青の宗門での位置付けです。会則の三条、四条に全曹青は

全曹青・龍象会 総会案内

時 五月二十三日
二時より

所 宗務庁

研修 最終回 宗門の書 “筆痕” 吉岡博道



無得下が筆痕を重視した法系であることを前述した。今回の天桂下は無得下、劣らず筆痕を尊重し、今でも天桂下の筆痕は沢山残っている。例によって法系図を右に掲げる。実に多士済済である。今回はその中から派祖天桂、直指、玄樓、物外をとりあげる。

まず天桂（一六四八—一七三五）だがその一代は余りに有名であるから省くが天桂の書は稀有である。全国に百本あるだろうか。私もそんなに多くの天桂書を拝見した訳ではないが、私の住職地正泉寺と天桂の住した駿州島田の静居寺は指呼の間にあり、静居寺はじめ島田宿の旧家には天桂書が秘蔵されている。禅機鋭く、雲水に畏られた天桂も却って在俗の人達にはやさしく法を説き、書を書き与えられたものと思われる。学生時代、その天桂が大井川の風光明媚なるを見て悟りの境地を得たと「道元禪」（誠信書房、昭和三十六年刊）に導かれ、春休みには近くの大井川辺りを逍遙、或いは青原山静居寺を叩き、自分の眉毛を木像におしこんだという天桂像を拝み天桂伝尊に親しみをもっていたが、「弁註」に打ち込む余裕はなかった。恩師小川弘貴教授は天桂もよいがその前に「論部」をよめ、宗乗はそれからよいといわれ、学生時代で天桂の一代記をよんだにすぎない。その後、三十年経過したが、今以って天桂の論著は大部で難解、ほんの一部外部から、つまり筆痕を通してのみ讃仰しているだけである。さて写真は「人、元と是れ旧時の人、旧時の路を行かず」である。正に快刀乱麻、切れあじ鋭いほのを感じる。天桂書はこのように剛毛をもって剛腕に揮う。サインは老暎眠とよむ。老螺蛤、滅宗とも号したから天桂書

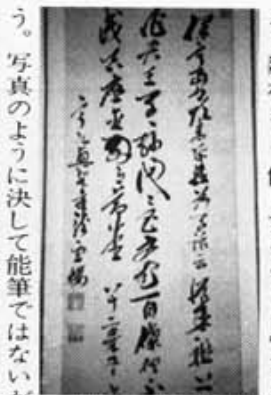


▲天桂書 (楞嚴院蔵)

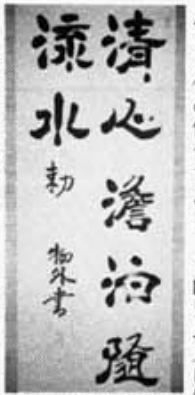


▲直指書 (正泉寺蔵)

つけてほしい。鑑賞してほしい。次の直指玄端（一七七六）については詳細はわからないが、天桂の法を嗣いでのちに象山問厚と並んで天桂下二神足の一人となった程の人である。陽松庵、歳驚庵、興聖寺、岡本寺の世代となった。何となくも師匠天桂の年譜を編集し、世に出したのが光っている。「退蔵始祖天桂和尚年譜」である。天桂を知る好箇の著作であろう。この直指の書は天桂よりの少ないと見ている。少ないが故に貴重である。多くを見ていないので論評できないが、師の天桂の筆痕を引きつぎ運筆流麗、それでいて重厚古淡の味わいがある。



▲玄樓書 (静居寺蔵)



▲物外書 (大泉寺蔵)

あいまってその筆痕も天桂、直指と比べると数が多く、偶目することもあると思ふ。写真のように決して能筆ではないが自分の見識によってドンドン書いて自由奔放さは「狼玄楼」の機鋒峻峭とマッチして宗門にあっては大尊貴の筆痕である。物外不遷（一七九四—一八六六）も読者にはおなじみかと思う。逸話が多く、怪力の持ち主で拳骨和尚とよばれ、その書、画は朴訥で、風趣に富むために当時から珍重されている。尾道法道寺に四十年近く住持し、武道不遷流の道場を構え、その傍ら、風流文雅に親しみ、幕末には勤王のため上京、朝暮の間を奔走した。物外の書については何となくとも自面賛が多い。グルマや人物、四君子、山水、不二山、宝珠である。そしてその賛は殆んど自作の俳句である。自面賛以上に物外の得意は隸書である。この写真もそうだがその力と大きさが感じられる。この力と大きさがその物外の素地であろう。ある人が物外の書について定力・脱俗・風趣の三点をあげたが言い得て妙である。以上、二年間十回にわたって宗門の書「筆痕」について述べたがまだこのほか「清涼寺系（法華寺系）」、「関三利系」「黄壁系」「散聖」等までは言及できなかった。畢竟するに宗門の書は済家に劣らず、よく書かれ、済家以上に禅的であった。それは対者を意識せず、無意識に書かれ、これが鑑賞用の美術品（対象物）になるという気持ちがないとはいえないが済家の人の十分すぎる程の相手意識する作品はほんの僅かの人のそれであって殆んど宗門書は素朴であり、温和な宗風そのままの宗教的心情を発露したものであったと確信する。

（文中敬称略）

墓石 記念碑

静岡県経済連指定
造園・資材・灯籠
建築石材張石工事



石のヒウガ (有)平賀石材工業所

本店工場 静岡県磐田郡佐久間町川合922 ☎(0539)65-1232代 FAX(0539)65-0921
 浜北営業所 浜北市於呂1377の5 ☎(05358)8-7503 豊橋支店 豊橋市羽根井西町12の13 ☎(0532)32-5730
 豊川インター支店 豊川市麻生田町中通り44の4 ☎(05338)4-7854 静岡ペット園 静岡市平沢山王50番地 ☎(054)263-7161
 袋井インター支店 袋井市山科3256-1 ☎(0538)43-0510

〈禅文化講座〉 『禅へのいざない』 (全4巻) 堂々の完成!! 全曹青より上梓さる!

先にお知らせいたしましたように、曹洞宗青年会は出版事業の一環として、**禅文化講座『禅へのいざない』(全四巻)**の刊行を企画いたしました。この度、度々、並びに執筆各位の協力により完成の運びとなりました。

以下に各巻の概略を記して、本書の内容を紹介いたします。

仏教はインドに興起し、普遍的なその教説は広く人々に受け入れられてインド国内に留まらず多くの国々に伝播しました。まず、上座部の教えがスリランカから東南アジア諸国に伝わり、次いで大乘の教えが中央アジアから中国へ伝えられました。また、チベットにも伝わり、大いに発展いたしました。

第一巻『インド仏教と禅定』においてはそれらの点について記してあります。
・仏教以前の宗教と思想 鳥岩
・仏教をインドの宗教・思想との関係で捉え、ヨーガ禅定について記します。
・仏教興起の時代背景 岩松浅夫
・仏教興起の時代背景を六師を挙げて記します。

・釈尊の生涯とその思想 池田錬太郎
開祖である釈尊の一生と、体得した真理について、資料に基づいて記します。
・仏教思想の展開と教団の成立 鈴木紀裕
釈尊滅後の結集から部派仏教への分裂を経て大乘仏教が出現し、更に密教化へと進む流れを記します。
・南方上座部仏教 青木宗弘
・チベットの仏教と禅 西岡祖秀

初期チベット仏教の形成に中国禅が大なる影響を及ぼしました。敦煌文書のチベット語文獻を手掛かりに考察します。次に、西域を経て中国にもたらされた仏教は、多くの訳教家の努力もあって目覚ましい発展を遂げました。そして、唐代になると禅は独立した教へととなり、禅宗として中国の社会に根をおろします。特に慧能の系譜は発展し、五家七宗からは多くの優れた禅僧が輩出しました。

第二巻『中国仏教と禅』ではそれらの点を扱います。
・仏教の伝播 大松博典

中国への仏教の伝播を、仏典の漢訳・格義仏教・諸宗派の成立等で記します。
・禅の伝来 佐々木章格
達磨から慧能の南宗禅・神宗の北宗禅の成立までを余す所なく記します。
・唐朝禅の展開 佐藤秀孝
慧能の禅、洪州宗の展開、百丈の清規、五家七宗の成立・発展等を記し、唐代の躍動感に満ちた禅の姿を記します。

・宋朝禅の繁栄 中尾良信
看話禅・默照禅の成立過程と、両者の相違点について記します。
・禅と浄土思想 落合俊典
宋代を境として禅と浄土は著しく接近し、元以降は禅浄双習の流れとなつてゆく点を記します。

・中国仏教の現状 中条道昭
中国の仏教をどのように理解したらよいかを、日本と対比で考えます。
・中国を経て日本に伝わった仏教は、奈良・平安時代を経過する間に日本古来の文化と融合し、さらに鎌倉時代に至って民衆生活に必要不可欠な存在となりました。特に、禅と浄土の各宗は著しい伸長を見せて民衆の間に広まりました。

第三巻『日本仏教と禅』においてはその点に焦点をあてて記します。
・鎌倉仏教の成立と禅 佐藤悦成
鎌倉時代に興起した浄土系各宗、日蓮宗、及び旧仏教の復興について記します。
・曹洞宗の禅 道元禅
道元禅師の生涯と思想を、最新の研究成果を交えながら分かりやすく記します。

・禅山禅師の生涯と思想を記し、門葉が全国に弘めた過程を記します。
・江戸期宗学 志部憲一
一寺院制度の整備と宗学の発展
幕末の寺院統制、江戸中期の宗統復古運動と宗義論争などを記します。
・臨済宗の禅 長谷川昌弘
栄西から始めて、済家の高僧・名僧を関係寺院とともに時代をわけて記します。

・黄檗宗の禅 岡本貞雄
開祖隠元の略伝と、日本における黄檗宗の展開を記します。
・禅と古典文学 久保田実
一 説話文学を中心に

日本への禅の初伝以降を、『日本霊異記』を題材に記してあります。
現代の社会に流布している仏教の概念は、多くの場合儀礼のみで語られたり、思想の一部を通俗的に解釈した信仰で知られたりしています。

第四巻『現代社会と禅』においてはそれ等の問題を主題としています。
・現代の社会問題の禅仏教 岡島秀隆
臓器移植と脳死の問題、人と自然の関係などを、禅の立場で鋭く捉えています。
・葬送儀礼と禅 成河峰雄
葬儀の歴史を清規の展開に即して論じ、その変遷を辿りつつ儀礼の意義を明らかにしています。

・宗教の東西交流 桐田清秀
一 禅仏教とキリスト教
一九七九年に始まった『東西霊性交流』の歴史と今後の展望を記します。
・アメリカ・ヨーロッパの禅 木村登次
曹洞・臨済両宗の欧米への開教の歴史を辿りながら、今後の課題を記します。
・現代宗教の諸形態 竹内堅丈
一 日本新宗教運動
新宗教各派の成立と発展の歴史を記しその教義を略説します。

・曹洞宗典籍の概説 佐藤悦成
道元・禅山両禅師の著述を中心に、宗典の簡単な解説をしました。
・ブックガイド禅入門 伊藤道宣
本書が宗侶の布教活動に寄与することを念願してやみません。

・本義書刊行の目的に沿うと思われる禅関係の出版物を紹介いたします。



禅文化講座

禅へのいざない

全四巻

曹洞宗青年会 編
B6判 並製函入
各巻平均二八〇頁
定価一〇、〇〇〇円
(分売致しません)

曹洞宗青年会が綿密に企画し、禅の歴史と思想を分かりやすく解説布教活動の貴重なハンドブック!!

- 第一巻 インド仏教と禅定
- 第二巻 中国仏教と禅
- 第三巻 日本仏教と禅
- 第四巻 現代社会と禅

「禅へのいざない」曹青会員価格のお知らせ
●専用振替用紙で前金の御注文の場合に限り1セット9,000円にて領布致します。振替用紙は大東出版社まで御請求下さい。
振替口座 名古屋 3-53719 曹洞宗青年会出版部
●尚その際、荷造費・送料として1回のお申し込みにつき、1律400円申し受けます。本広告掲載の他の書籍と一緒に御注文いただいても、送料合計は400円です。

- ◎現代語訳で読む
 - 宝慶記 池田魯参著・四六判・310頁・2,800円
 - 学道用心集 篠原壽雄著・四六判・308頁・2,800円
 - 正法眼蔵随聞記 篠原壽雄著・四六判・454頁・2,900円
 - 永平大清規 篠原壽雄著・A5判・455頁・5,974円
 - 天台小止観 関口貞大著・B6判・138頁・1,100円
- ◎読書で座禅をする
 - 詩と禅 小倉玄照著・B6判・224頁・1,236円
 - 禅院おりおり 小倉玄照著・四六判・277頁・1,751円
- ◎敦煌に学ぶ
 - 敦煌仏典と禅 (講座敦煌第8巻) 篠原壽雄、田中良昭編・A5判・466頁・7,800円
 - 敦煌禅宗文献の研究 田中良昭著・A5判・724頁・16,377円
- ◎学術叢書禅仏教 (A5判)
 - 監修/古田紹欽/鏡島元隆/柳田聖山/鎌田茂雄
 - 唐五代の禅宗 鈴木哲雄著・428頁・7,725円
 - 道元禅師とその周辺 鏡島元隆著・370頁・7,210円
 - 華嚴禅の思想的史的研究 吉津宜英著・386頁・7,210円
 - 摩訶止観研究序説 池田魯参著・376頁・8,755円
 - 宋代禅宗史の研究 石井修造著・610頁・13,390円
 - 中国中世仏教史研究 諏訪義純著・326頁・8,240円
 - 日本禅宗史の諸問題 古田紹欽著・306頁・8,240円

表示の価格は全て税込

目録

株式会社 大東出版社

〒113 東京都文京区白山一丁目一七番一〇
電話(三三六)七六七〇 FAX(三三六)三三八